

第3回 総合計画審議会

(第3回)

議題：(1)平成26年度市民意識調査結果について(2)第5期恵庭市総合計画基本構想(案)について(3)地方版総合戦略について

日時：	平成27年4月28日	14:00～16:00	場所：	恵庭市民会館2階 大会議室
出席者：	北海道文教大学	井上 大樹	一般公募	會田 さよ
	恵庭市地域女性連絡会	後藤 美江	市民まちづくりワークショップ	青野 菜名
	恵庭青年会議所	佐藤 康介	一般公募	阿部 順子
	北海道大学	瀬戸口 剛	恵み野商店会	小笠原 剛
	北海道大学	高野 伸栄	市民まちづくりワークショップ	柏野 大介
	道央農業協同組合	高橋 義則	島松地区まちづくり市民委員会	佐々木 敏文
	恵庭観光協会	土谷 秀樹	一般公募	白崎 亜紀子
	恵庭商工会議所	中泉 澄男	一般公募	寺澤 道恵
	恵庭市文化協会	中村 和子	一般公募	野原 和憲
	恵庭市町内連合会	野原 聡	元 花野菜 会長	長谷川 秀壽
	恵庭市校長会	平田 弘子	恵庭市社会福祉審議会・児童福祉専門部会	福元 未来
	恵庭市体育協会	牧 由美子	恵庭地区まちづくり市民委員会	水野 みどり
			市民まちづくりワークショップ	山田 義久

作成部署：企画・広報課 総合計画担当 作成者：松居 友輝

議事録内容(1/17)

	会議次第
	1. 議事
	(1)平成26年度市民意識調査結果について
	(2)第5期恵庭市総合計画基本構想(案)について
	(3)地方版総合戦略について
	2. その他
司会	ただ今から、第3回恵庭市総合計画審議会を始めさせていただきます。
(林企画振興部次長)	それでは早速ですが北越副市長から一言ご挨拶させていただきます。
副市長	今日は年度が替わりまして初めての審議会になりますので、一言だけ日頃の皆様方のお力添えにお礼もかねて市長に代わりましてご挨拶を申し上げたいと思います。
	後ほど事務局からも説明がありますが、昨年度に総合計画策定のために事前に市民意識調査を行いました。
	その結果、対象者は限られていますがアンケートに応じていただいた市民の95%の方が恵庭は住みやすいまちであると
	評価をしていただいて、同じく90%の市民の方がこれからも住み続けたいと高い評価をしていただきました。
	行政に携わるものとしても、非常にありがたいと思っております。こういった市民の満足度をさらに維持、充実、拡大していくためにも
	この10か年の総合計画策定は極めて重要な事業であると捉えています。また新聞等でご存知だと思いますが、
	地方創生ということで地方版の総合戦略を策定してまちづくりを進めようと、国を挙げて取り組みが進んでおります。
	たまたま私たちの恵庭市総合計画の前期5年間で重なることになりますので、この後ご審議いただきますが
	地方版の総合戦略と一体的な取り組みとして総合計画の策定を進めていただきたいと思います。
	どなたもお忙しい中と存じますが、よい今年度、業務は多忙となっております。
	皆様方のお力をいただきながら、無事に年末までには議会にきちんとした形で示し、市議会においても議論していただき、
	市民の皆様にも公表していくといった手続きを踏みながら、取り進めて参りたいと考えておりますので、
	皆様方のいっそうのお力添えをお願いいたします。どうぞ今年もよろしくお願いいたします。

議事録内容(2/17)

司会	本日の審議会でございますが、1名の委員におかれましては所用のため欠席されるということで連絡をいただいております。 それから3名の委員につきましては、若干遅れてお見えになるということで連絡をいただいております。 それでは次第の3番目でございますが、今年の4月1日の人事異動で事務局の方で変更がございました。 新しく担当となった職員を紹介させていただきます。 企画・広報課長でありました廣田の後任であります、大槻雄二でございます。 (課長挨拶) 次に今年度新規採用となりました、松居友輝でございます。 (松居挨拶) どうぞよろしくお願いします。 それでは次第の4番目の審議事項になりますが、これより会議の進行を中泉会長にお願い致したいと存じます。
会長	皆さんこんにちは。連休前の大変お忙しい中、第3回目の総合計画審議会ということでございます。 恵庭市を見ますと、市議会選挙も終わり桜も咲いているようでございます。 皆さん真剣に活発な審議をお願いしたいと思います。 先程、副市長さんも言われましたけれども、この計画案は恵庭市の今後10年を決めるということでございますので、なるべく恵庭の良さをアピールしながら、恵庭を良い方向に持っていけるような計画案になることを私も願っております。 今日は3点ほど審議事項がありますが皆さんの積極的な意見をよろしくお願いいたします。 それでは今回の審議会が初参加となります瀬戸口委員、高野委員におかれましては簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。
瀬戸口委員	皆さんこんにちは。北海道大学の瀬戸口と申します。 この中では何人か一緒にまちづくり研究会で一緒にさせていただきました。 私、恵庭の方には大分ご縁をいただいております、道の駅の計画の時にも携わらせていただきました。 今では年間100万人も訪れるとても素晴らしい施設になりました。 黄金のふれあいセンターの設計もさせていただいて、人口6万8千人の恵庭市で年間7万人来るそうです。 恵庭市民の数より多く来ていただいて非常に評判をいただいております。 これからも恵庭市の皆さんと一緒にまちづくりを考えさせていただきたいと思っておりますので、是非ともよろしくお願いいたします。
高野委員	北海道大学の高野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 昨日もこの場所で15時から恵庭の観光振興計画のキャッチフレーズなどを議論していました。 議論が百出しまして、なかなかまとまりませんでした。 観光の方でもどういう風にして恵庭をアピールするかということを色々考えておりました。 またここでも色々議論させていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
会長	ありがとうございました。それでは本日の審議事項ですが3点ございます。 事務局から説明をいただいて、意見や疑問点を挙げていただき、 事務局が即答できるものは説明していただき、説明をできないものは次回の審議会までに検討していただき回答をすることで、進めていきたいと思います。このような進め方でよろしいでしょうか。 (各委員～了承) それでは、議題1番目の「平成26年度市民意識調査結果」について審議いたします。 事務局より説明をお願いいたします。

議事録内容(3/17)

[議題1 平成26年度市民意識調査結果について]

事務局

それでは私の方から説明いたしますが、その前に会議資料の確認を致します。今日、机上に次第がありまして、郵送していたものにアンケートの市民意識調査結果、基本構想(案)、総合戦略に関する資料が3点ございます。皆様のお手元にごございますでしょうか。それでは平成26年度市民意識調査結果について説明をさせていただきます。

昨年の12月5日、無作為抽出による16歳以上の市民2,000名を対象に実施いたしました。

このアンケートは、第5期総合計画において、基本目標ごとに成果指標を設定したいと考えておりますので、指標設定を視野にいれた設問を行いました。なお本日、資料として配布したものは「概要版」となっております。それでは、主な集計結果についてです。1ページから17ページまでは、質問内容と属性の結果となっております。18ページをご覧ください。

問1の「恵庭市は住みやすいまちですか。」に対し、「住みやすい」46%、「どちらかといえば住みやすい」49%、合わせて95%の回答者が住みやすいと評価しております。

傾向といたしましては、居住年数が増すにつれ、住みやすいと感じている割合が高くなっております。参考ですが、前回の平成25年度調査では、「分からない」の回答項目を含め5つの選択肢があり、「住み良い」「どちらかといえば住み良い」を合わせると87%となっております。

次に、19ページをご覧ください。問2の「恵庭市に住み続けたいですか。」となります。

今回、初めて尋ねた定住を意識した設問ですが、「ずっと住み続けたい」42%、「どちらかといえば住み続けたい」48%、合わせて90%の回答者が、住み続けたいと評価しており、非常に高い割合となっております。傾向といたしましては、問1と同様に居住年数が増すにつれ、住み続けたいと感じている割合が高くなっております。

次に、20ページ、問3の「住み続けたい理由」であります。「地域に住み慣れていて愛着を感じるから」63%、「大都市や空港に近いから」61%、「自然環境に恵まれているから」47%、「買い物が便利であるから」30%、の4点が住み続けたい主な理由となっております。

次に、22ページ、問4の「引っ越したい理由」ですが、「市内公共交通の便が良くないから」45%、「買い物が不便であるから」42%、「娯楽・スポーツ・学習など余暇を楽しむ機会に恵まれていないから」32%の3点が引っ越したい主な理由となっております。

24ページの問5から、44ページ問36ですが、第5期総合計画につきましては、基本目標ごとに指標設定を行うこととしており、その数値設定に用いることを想定した設問としております。例としましては、24ページ、問5では「避難場所をご存知ですか。」の設問に対し、「場所、行きかたともに知っている」の割合は53%となっており、5年間の基本計画期間で53%という割合を増加することを目標にするなどの活用を予定しております。

設問ごとの説明は時間の関係上、省略させていただきますが、後ほどご一読願います。

最後に、45ページ問37の「市政全般の自由意見について」ですが、237件の自由意見が寄せられており、語句関連性分析、テキストマイニングという分析を行い、意見から関連性の強い項目をまとめています。

項目としましては、

- ・駅前開発(恵庭駅、恵み野駅周辺)によるにぎわい創出について
- ・除排雪について ・福祉・医療(病院)施設の充実について
- ・エコバスの増便など利便性の拡大について
- ・高齢者対策について ・ゴミ問題(処分場等)について
- ・子育て・教育環境の充実について
- ・広報等での情報発信について
- ・市役所職員の対応について
- ・雇用について 等となっております。

簡単ですが、以上で説明を終了させていただきます。

議事録内容(4/17)

会長	市民意識調査結果ということでございますが、この件について何か質問や疑問点等があれば伺います。
A委員	資料に概要版と記載されています。概要版ではない版をホームページ等で探しましたが、見当たりませんでした。もう少し詳しい分析をしているものがあれば、どこかの場面で見たいと思いました。
	1ページ目の調査の実施概要に、アンケートの回収率が高いと書いていますが、平成24年度からの回収率と比べると年々下がっていて平成24年度50%、25年度47%、26年度44%の回収率となっています。
	この辺りの下がっている傾向をどのようにご覧になっているのか伺いたいと思います。
	一般的な回収率の30%という数値と比べて、高いから良いというわけではないと思います。
	回収率が下がっているのは、関心がなくなっているということだと思ったので、考え方を聞きたいです。
	18ページ以降で本格的な質問になっていくと思いますが、
	この辺りになっていくと世代とかの話が出ないとわかりづらい話がいくつかあると思っています。
	例えば22ページの問4「引越したい理由」で、買い物が不便であるから(42%)とありますが、
	20代が考える買い物が不便と、70代が考える買い物が不便とは意味が全然違ってきます。
	このように書いてしまうと、買い物が不便だから商業施設を持ってくればいいというような話になると思いますが、
	その商業施設はまるで違うものになってしまうと思います。
	このようなことを考えた時に年齢別で考えなければ、データを読み間違えてしまう恐れがあると思います。
	その辺りを把握しているのかお聞きしたいです。
	全般的な質問で、この資料は総合計画に使うためにアンケートされているのですか。
	だとするのでしたら住み続けたくないなどのマイナス要因を分析して一つ一つなくしていけるようにできるといいなと思いました。
事務局	お配りした資料が概要版で本編はありますか、という質問でしたが本編はございます。
	世代別の意見傾向がわかるものがあるのではないですかという質問でしたけれども、
	属性一つ一つにクロス集計をかけた資料でございまして、資料の本編全部で300ページ以上になってしまっていて、
	公表の仕方を考えなければ、ただ公表するだけでは見てもらえないと思いましたので、公表はしていませんでした。
	この後、工夫すれば公表できると思いますが、果たして皆さん個々で見たがるかなと思っていますので
	検討させていただきたいと思います。
	回収率が平成24年度から下がっているということですが、平成24年度からみると順々に下がっていますが平成21年度には47%、24年度50%、25年度47%と回収率にはばらつきがあります。
	調査の時期の影響もあると思います。
	その時点での世帯や世代を限定して調査をかけることもありまして、その辺の細かな分析をしていないのが事実です。
	平成25年度、26年度は調査にかけた時期が12月で、忙しい期間での調査ということもあって下がってしまったと考えています。
	あと18ページ以降の世代別での回答や、22ページの買い物の不便さで
	若い世代がどのように思っているのかその辺りのクロス集計の部分ですが、明らかに傾向としてはっきりわかるものについては、
	下の方の・(黒ボツ)などで注釈をうって説明をしています。
	ですから、買い物の不便さについては世代別、年齢別に見るとはっきりとした傾向はあまり読み取れません。
	総合計画に使うためにアンケートを行ったので、住みにくい理由などのマイナス面をなくす設問を設けてはどうかという意見ですが、
	今回のアンケート自体が基本目標ごとの成果指標の設定を行うことが第一の目標です。
	ですから、問5(24ページ)以降のそれぞれの項目別の現在市民の方がどう思われているかの把握を第一に考えていまして
	これだけでもボリュームが増えてしまいました。
	ですから、今回は重点的にやったため細かいところまで聞けませんでした。
	次回以降でアンケートを行う機会があれば、考慮していかなければいけないと考えております。
	以上です。

議事録内容(5/17)

A委員	18ページで居住年数が増すにつれて、住みやすいの割合が増える傾向が見れるというのは、ある意味では当たり前のことで、長く住んでいる人は満足しているから住み続けていられるわけで、結局、その満足していない人が長く住まないで出て行ってしまうという可能性があるならば、そこに手を打っていかないといけないと思います。 逆に言えば、住み続けたくない人が10%もいるということが問題であり、その人たちがどうして住み続けたくないのかという辺りをもう少し詳細にわかるといいなと思いました。 成果指標の方は細かくアンケートされたということですが、設問として例えば27ページの問10「高齢者や障がい者にとって住みよいまちづくりができていますか」の設問で10代、20代、30代で低くなるのは当たり前という気がしまして、当事者でないのだから全体として割合が高い、低いというのは想像力の問題であって、この数値が高くなったから市としての取り組みがうまくいっているということではなくて、当事者に聞いて満足度が高くないとちょっと違うのではないかという気はしています。 そういうのも含めてアンケートの取り方もそうですが、先程言っていたのが世代を按分して調査した年もあるという話をされていて例えばアンケートの出し方、時期などによって世代の偏りが出てくるがあると思っていて、やはり回答者は50代、60代、70代で全体の半分以上ですね。 そうすると10代～40代にリサーチするような他の方法を考えていかなければ、アンケートや属性も偏ってしまい、市民アンケートといっていますが、アンケート自体の質問も偏ってしまうことになります。 回答者が偏ってしまうと、それが市民全体の意向を把握したものになるかという疑問が生まれてくるのでアンケートの取り方を世代別にある程度、均等になるような形を考えていかなければならないと考えました。 意見になってしまったので返答はいりません。
B委員	28ページの問12「認知症についてご存知ですか」のアンケート結果で、病気・その症状ともに知っているの回答で例えば記述で身内がこういう認知症だったから知っているとか、介護職をやっている知っているとかが、そのような記述欄は設けなかったのか、または他の調査でもやっていないのか、その辺、具体的に認知症をどういう風に捉えて知っているのか、知らないのかを具体的に調べられたのでしょうか。
事務局	設問としてはここに書いてあるだけになります。 設問、選択肢ともにこの通りでどこに該当するかだけを答えていただきました。 記述欄も設けていませんし、回答者も無作為抽出で選んでいますので、その方の属性や回答していただいたご家族の他に、介護のお仕事をされている方がいるかどうか分かりません。 以上です。
B委員	わかりました。 ただ、ぜひ今後このような調査をする際には、45ページの「市政全般の意見」で、福祉や医療、介護施設の充実の意見が多くあがっていて、キーワードにもなっていますのでもう少し詳しくアンケートをしてほしいと思います。 家族として認知症の方と付き合っていて認知症を知っているというのと、介護職員だから認知症を知っているというのでは同じ知っているでも、意味が違ってくると思います。 何らかの形でそういうことを明確にしていかなければ、行政と家族、介護施設等の現場との間で差ができてしまうのではないかという気がしますので、良いリサーチがあればしていただきたいと思います。 以上です。

議事録内容(6/17)

C委員	調査の概要で2,000人を無作為抽出し、回収率が44.5%で887人が回答していますが、 恵庭市の人口はおよそ68,000人で約1割にも満たないアンケートで、 年代別にもなっていませんし、市民全般にこのような大まかな質問をしても、データとしては全く参考にならないと思います。 あくまでも参考にして、これからのまちづくりや色々な行政に反映させるのは良いと思いますが、 やはりアンケートの出し方が安易なのではないかと思います。 この年代だからこういう問題がある、お年寄りならそれなりの問題があるので、年代別に質問されるともっと明確な答えも出ますし、参考になったのではないかと思います。
	あと先程、B委員もおっしゃっていた通り、認知症対策が今すごく良い部分で治療法が非常に進んでいて、 認知症高齢者が、ただ食べさせられたり、薬を飲むとかではなくて本人をきちんと見据えてコミュニケーションをとる、 本人を褒め称える、本人の持っているものを引き出せるような方法があるようで、 認知症高齢者とコミュニケーションを取る方法の1つとして、現在多くの介護士から注目されているバリデーションワーカーを全国に広めて 私たちでも勉強すれば、バリデーションワーカーのようになれるし、家族でもバリデーションワーカーになれる画期的な方法があります。 そのようなものの情報を得ながら各施設で取り入れたり、行政としても声掛けをできたら良いなと思っています。 アンケートの%も、人数も少ないですし、ちょっと不手際と言いますか、ごく一部の参考にしかならないと思いますが、 まちづくりなどに活用していただけたら良いと思います。 以上です。
事務局	貴重なご意見ありがとうございます。 確かにアンケートを全市民に回答をいただいて中身についても、もう少し詳しくできると 大変良い結果が出ると思いますが、今回一般的な統計で、人口70,000人くらいなら2,000人を選べば 全体的な結果と変わらないというようなことから、このようにアンケートを行いました。 今後につきましては、いただいた意見を参考にしていきたいと考えております。 よろしくお願いいたします。
D委員	子育ての分野で29ページの子ども、教育、文化、スポーツについて、 問13「地域での子育て支援など子どもの育成の取り組みが行われていると思いますか」の設問で 思うが61%で思わないが39%という結果が、少し残念な思いをしました。 恵庭市は子育て支援に力を入れているまちです。 続いて問14「恵庭市の子育て環境が整っていると思いますか」の設問では 先程と同じような結果で、思わないが約40%となっております。 また、次の問15「子育て世代にとって子育てに関する各種情報が入手しやすいと思いますか」の設問に至っては、 思わないが約半分の51%の割合で占めています。 この結果は、行政側が市民に訴えかけているところが少しずれているのではないかとアンケート調査で感じました。 やはり私も実践として、えにわっこサポートカードを提示いただければ、私の勤めているところで子どもたちにサービスしています。 入会金もサービスしていますが、入会者がえにわっこサポートカードの存在を知っていません。 子ども未来室に行ってカードを作ってくださいとアナウンスしていますが、行政の行っていることが市民に反映されていないので 何か別な方法が必要となるまでできているのかなと感じました。 子育ては総合計画の柱にもなっていて、「希望を持って子育てしたくなるまちづくり」と謳っていますので、 力を入れているのであれば、せめて70%くらいは知っていてほしいと思いました。 どのように市民にメッセージをしていくかという方法を審議するのも手なのかなと感じましたので、お話をさせていただきました。
会長	意見ということでよろしいですか。 次にいってもよろしいでしょうか。 それでは議題2番目の「第5期恵庭市総合計画基本構想について」事務局より説明お願いいたします。

議事録内容(7/17)

[議題2 第5期恵庭市総合計画基本構想(案)について]

事務局	第5期恵庭市総合計画基本構想(案)についてご説明いたします。
	2月17日から20日にかけて開催いたしました総合計画審議会の3つの専門部会において、
	基本構想の検討素案をお示しし、その構成についてご議論いただきましたが、
	専門部会での意見及び市の内部組織である総合計画策定委員会の意見などを基に、基本構想(案)を作成いたしました。
	資料を1枚めくっていただきまして、目次をご覧ください。
	計画のつくりといたしましては、「第1章」から「第5章」及び、「資料編」、「施策の体系」からなります。
	それでは、順に章ごとの概要について、ご説明いたします。
	まず、資料1ページ、第1章「総合計画の目的」ですが、「恵庭市まちづくり基本条例」制定後の計画策定となりますので、
	基本条例の精神を全面に出し、「総合計画は、市民、議会、市が、協働と役割分担のもと、長期的な視点と展望を持ち、
	目指すべき共通の将来像をイメージして、その実現に向けてまちづくりを進めていくための計画として策定すること」を目的としております。
	次に、資料2ページ、第2章「総合計画の構成」ですが、策定方針でもお示したとおり、基本構想10年、基本計画が前期・後期各5年、
	実施計画が第1次から第4次までで、それぞれ3年・2年・3年・2年とした3つの階層による構成であることを記載しております。
	下の図では、地方版総合戦略の計画年度も参考に図示しております。地方版総合戦略は平成27年度に策定しその年を含む5年間、
	つまり平成31年度までの計画期間となりますが、その後の策定については現段階では、はっきりしておりません。
	次に、資料3ページと4ページ、第3章「まちづくりの担い手～まちづくり基本条例に基づく役割」ですが、
	今回の総合計画は「協働の視点」による計画づくりを目指しております。
	このため、まちづくり基本条例の基本原則、「市民、議会、市が協働で行うまちづくり」のとおり、協働の方針として、
	「市民の役割」、「議会の役割」、「市の役割」について、それぞれ記載しております。
	総合計画審議会 専門部会におきましても、まちを変えていく力として、地域の人々のつながりである「地縁」と、
	同じ目的を持った人々のつながりである「こころざし」の縁「志縁」が必要であるとの話がありましたので、
	「花のまちづくり」や「通学合宿」などの取り組みについても触れさせていただいております。
	次に、資料5ページ、第4章「めざすまちの姿～将来都市像」です。
	キャッチフレーズのなまちの将来都市像を今後、数件提案し、総合計画審議会から答申をいただく中で、
	決定していきたいと考えております。現段階では4点ございまして
	・昨年度行なった市民の方々からの意見集約を参考とした
	「ひとと自然に囲まれた住み良いまち えにわ」、
	・恵庭市まちづくり基本条例の前文に位置づけられている
	「花・水・緑 人が支えあう 生活都市 えにわ」
	・第4期恵庭市総合計画のキャッチフレーズや恵庭市まちづくり基本条例前文を発展させた
	「水・緑・花・人・夢 つながるまち えにわ」
	・頭文字を取ると「え・に・わ」となる
	「笑顔あふれる 日常生活を 輪になりおくれるまち えにわ」
	を提案していますので、ご提案がございましたら、是非、お願いいたします。
	中段には「将来都市像に込めた思い」として、恵庭市の状況を踏まえたこの計画の概要」を記載しております。
	こちらについても、「花のまちづくり」や「通学合宿」などの取り組みについて触れさせていただいております。
	次に、資料6ページからの、第5章「まちづくりの目標」ですが、
	(1)まちづくりの視点として、昨年度行ないました分野別団体による市民まちづくりトークや地区別による市民の広場、
	一般公募市民による市民まちづくりワークショップ等による市民の方々からの意見を集約したところ、
	「①時代に沿った地域運営」、「②暮らしの安全安心」、「③次世代へつなぐ自然環境」、「④人と人とのつながり」、「⑤情報発信・魅力PR」
	が大切との意見が多かったことから、これらをまちづくりの視点としています。
	8ページから13ページは、第5期総合計画の5つの基本目標として、
	「市民による市民のためのまち」、「安全安心に暮らせるまち」、「希望と活力に満ちたまち」、「人が育ち文化育むまち」、
	「地域資源・都市基盤を活かすまち」の内容について記載しています。
	14ページは、(3)重点的な取り組みの方向性(恵庭版総合戦略)として、4本の柱を記載しておりますが、
	総合計画審議会 専門部会でのご意見を参考として、表現を「人がつながり人口減少を強みに変えるまちづくり」、
	「安全安心に住み続けたいまちづくり」、「希望を持って子育てしたいまちづくり」、「恵庭らしさを活かした魅力あるまちづくり」
	と修正し、15ページから18ページに内容を掲載しております。

議事録内容(8/17)

次に、19ページから資料編「社会情勢の変化と恵庭市を取り巻く環境」ですが、20ページ 第1節恵庭市の住み良さ、21ページ、22ページ 国及び恵庭市における人口将来見通し、23ページ 世帯構成、24ページ 市民所得、25ページ 農業・商業・工業統計、26ページ 観光人口、27ページ 社会保障経費、28ページ、29ページ 公共施設の維持管理費、30ページ 公共施設の更新費用の想定、最後に31ページ 恵庭市の財政状況の推移と見通しの状況を示すことにより、これまでの計画とは異なり、市政運営を行うためには、現状どおりではなく、「選択と集中」のもと事業を進めていく必要があるということをグラフにより視覚的に分かりやすく示して参ります。最後に、資料32ページ「施策の体系」ですが、5つの基本目標と24の目標、それらの網羅する施策範囲を示しております。また、右側には総合戦略の4本の柱を示しています。駆け足で説明いたしました以上となります。よろしくお願いいたします。

会長 ただいま説明がありました。質問、意見等ございませんでしょうか。

C委員 今、細かく説明していただきましたが、5ページに大まかな将来都市像案が出ています。案1、案2、案3は今までも審議会等で審議していましたが、案4の「笑顔あふれる 日常生活を 輪になりおくれるまち えにわ」このフレーズで「おくれる」という言葉が少し疑問に感じていて、ふさわしくないような気がしています。もう少し良い表現があるのではないかと、例えば助け合えるとか、文言を検討してみてもいいかがでしょうか。以上です。

事務局 市の方でも職員に募集したところ、このような案が出てきて今回提案させていただきました。この中でご審議いただいて、意見を取り入れながらどの案にするか最終的に決めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

A委員 3ページのところで協働の方針の市民の役割でいくつか記載されていますが、基本的にはまちづくり基本条例の5条、6条で述べている市民の役割を膨らまして書いているということですね。ですから、このまちづくり基本条例に書いてあることよりも、たくさんの内容を総合計画に盛り込んでいいということでしょうか。基本条例の枠に留まるのではなく、基本条例よりも多くのことを書いていいのかという確認です。

E委員 基本条例はまちづくりの全てではありませんよね。第5期総合計画はこれから10年を占う上で、まちづくりも考えなければいけないのだから当然、条例に入っていないこともありますよね。

事務局 A委員のおっしゃる通り、まちづくり基本条例の範囲内で膨らませています。ただ、まちづくり基本条例は色々なことを想定して盛り込んで策定しておりますので、まちづくり基本条例の範囲をはみ出るといことは、恐らくないと思います。表現も含めましてよりこういうことをやりたい、この部分に肉付けしたいというのはもちろん結構でございます。

A委員 はい。というのを確認した上で次の4ページのところにいきたいのですが、まちづくり基本条例の中で7条、8条で議会の議員の役割というのが書かれていて、逆に言うとここに書いているのはそれよりむしろ縮小されている感じがします。7条に議会は、市の重要事項の意思決定を行うと書いておりますが例えば、過去に市長と議会が対立ではないですが、一致をしなかった時に、議会の方が十分に重要事項の優先順位を決めることを明確にできなかったようなことがあった気がしてましてここに例えば、議会は市の政策の優先順位等重要事項の意思決定を行うなどのようにした方が、議会の役割がより明確になって良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。

事務局 この審議会でご審議していただいて、その方がいいというのであればそのようにしていきたいです。

議事録内容(9/17)

C委員	難しいですね。 私たちは議会にも参加できませんし、傍聴もできないのでその辺はわかりませんが、ここでちゃんと優先順位等を決めた方がいいのですか。
A委員	今、想定してお話をしていたのが過去に恵庭市で前の中島市長の時に、恵庭市の4大事業がありまして和光小学校の新築分離の問題と、恵庭の駅前開発と恵み野駅西口の開発と、西島松北の開発の4つの中で優先順位をどうするかという話をした時に、議会として和光小学校の新築分離に向けて陳情の採択をしたにも関わらず、その後予算の時に増築を認める予算を議決したということがありました。 その時に議会側として言っていたのが、予算の提案権は市長にしかないから予算を否決してしまった場合に結局その後の事業が遅れてしまうから優先順位の判断は議会にはできないということをやっていたことがありました。 でもその重要事項の意思決定を行うということであれば、議会として優先順位等を判断していくということを議会の役割としてできるはずなので、それをあえて言っていた方が明確になって良いのではないかと思います。 議会がきちんと責任を持って駄目だったという判断ができと思うのでその責任を市長のせいにはできなくなると思うのでその方が良いのかなと思いました。
副市長	ご理解いただきたいのがまちづくり基本条例というのは一つの理念といえますが、協働でそれぞれの役割を果たして、まちをつくっていきますといった基礎であるという認識を私はしています。 総合計画もこの先10ヵ年のまちづくりをする姿、目指すものを理念として、考え方としてまとめています。 ですから、個々の事業についてどうしていくかというのは、総合計画に基づいて改めて今までの例から言うと10ヵ年を2期に区切って前期・後期の5ヵ年の事業を具体化するための基本計画というものをつくります。 それをさらに3年・2年の年次ごとの実施計画をつくります。ここには具体的な事業名が出てきます。 そこで議会で議論していただくこと、市民の意見を聴くこと等を繰り返しながらまちづくりを進めていくことになりますのでここに議회를制圧するようなことまで載せる必要は無いと私は判断を致します。 そうしなければ、この役割というのがそこまで議会活動その他、市民の権利義務等の全て方向性としてはこうありたいと書いたにしても個別の制約まで求めるのは馴染まないと思います。 したがって、32ページの施策の体系というのがありますので、ここに恵庭市の将来像を決めて先程も議論で出た4つの案もありますし文章の表現等をまとめて、今度は一本にまとめていきます。 そしてそれを基に5つのまちづくりの視点に基づいて皆さんのご理解をいただければ、次の基本目標に置き換えてそれぞれの目標をたてて事業を実施する。こういう展開を考えておりますのでそのような視点でこの場で議論していただきたいと思います。 以上です。
A委員	議회를制約すると言いましたが、制約というよりは権限を明確にするだけなので、縛りが強くなるわけではないと思います。 それと結局、総合計画に基づいて実施計画をつくっていった実施計画にたくさん盛ったけど結局やっていない事業も現実的にあります。 それならば優先順位の判断はどうなるのかなと思っているんですけども。
副市長	制約という言葉をあえて使いましたが、そのためにまちづくり基本条例をつくって議会の役割等を明確にしたつもりなので、そこが根本となって総合計画も出来上がるわけですから、その部分についてあえて重複するような書き方は私は必要無いと思います。 これは私の考え方ですので、皆さんで議論していただければよろしいと思いますが、基本になるのはまちづくり基本条例です。 その中に議会の役割が明示されていますから、それに基づいて議会が取り組んでいただければよろしいと思っています。
会長	その他、何かございますか。

議事録内容(10/17)

B委員	4ページ「議会の役割」と「市の役割」でPDCAサイクルという用語がありますが、 一般の市民の方々に読んでもらうとしたらPDCAサイクルの意味を注釈が何かで説明をしていただきたいと思います。 それと2ページの下にある総合計画の構成を見ても、PDCA(計画実行評価改善)を どこで、どのタイミングでやるのかが、わかりづらいと思いました。 10年間の基本構想をつくって、5年・5年の基本計画で年度に1回評価するのか、あるいは評価して誰が改善するのか 市民に意識調査の類とかアンケートをとるとか、PDCAサイクルのタイミングを大まかでもいいので、 市民に聞くべきところ、議員に聞く、職員でやるというのをもう少し計画の中に具体的に示していただきたいと思います。
	5ページ「めざすまちの姿」の案でもう少し言葉を短縮できるのではないかと思います。 例えば案2で花・水・緑 人が支えあう生活都市 えにわ や 案3の水・緑・花・人・夢 つながるまち えにわ とか、花のまちをアピールするという点ではいいと思いますが、案2は 花・水・緑がなくても通じますし、 案2と案3で被り過ぎているという気はします。 以上です。
事務局	PDCAサイクルの言葉、意味が一般的にはまだ馴染みがないのでわかりづらいということでしたが、 おっしゃる通りだと思います。大変失礼いたしました。 私たちはこの単語を頻繁に使っているので、私たちの感覚でその辺が抜け落ちていました。 注釈が何かで意味するものを載せたいと思います。
	PDCAサイクルのチェック・評価・改善をいつ、誰が行うのか基本構想案では見えていないというご質問ですが、 恵庭市では行政改革推進委員会という外部委員の方にも参加していただいている組織があります。 その中で行政評価をしております。 市の色々な事業の課題やその有効性、もっと効率良くできないだろうかというようなことを行政改革推進委員会でやっています。 これについては今回の総合計画の基本構想には入れておりませんが、 別で行政改革推進計画がありまして、そちらの方で位置づけや規定を書かせていただいております。
	キャッチフレーズの案については一応4個載せてありますが、 あくまでも話のたたき台ということで載せているだけなので、良いキャッチフレーズになるようにご審議いただきたいです。 よろしくお願いいたします。
会長	その他、何かございますか。
F委員	今日は何を決めなければいけないのですか。 今、総合計画の構想案という風に出ていますが、全てこれでいいですかということなのですか。 それとも個々で何か不都合があれば意見を言ってくださいということなのですか。 先程のキャッチフレーズの案も今決めなければいけないのか、その辺のことをまず先に説明していただきたいです。
事務局	最初にご説明していなくて申し訳ございませんでした。 キャッチフレーズについてはこの後の別の機会を設けて話し合いをしていただきたいと考えております。 次回5月25日に総合調整部会の開催を考えてまして、その中でキャッチフレーズをご議論いただければと思っています。 ですから、今日ご意見がありましたら、いただいて総合調整部会に持って行って1本に決めていくような流れを考えています。 基本構想案についてですが、今この場で決めていただくのは難しいと思います。 こちらの方からも案として提案させていただいておりますので、おかしいところや修正していく点をご意見いただいたものを、 また事務局の中で修正していきたいと思います。 この後専門部会等も5月下旬から7月の間で開いていくと思いますが、その中で基本計画24項目をご審議いただきたいと思っています。 ですから、ご意見いただいた中で事務局で修正を加えて進めていくと考えております。 以上です。

議事録内容(11/17)

会長	その他、何かございますか。
D委員	総合計画の基本構想案は別の会議でも審議しているのですか。 それとも私たちだけのメンバーで審議しているのですか。
事務局	市民の方々を含めた会議は、ここの審議会が正式の場となりますのでここだけの審議となります。 ですが市の内部では、策定委員会というものを組織して審議を行なっています。
D委員	できればよろしいのですが、市の内部で会議したことを教えていただけることは可能ですか。
副市長	市役所の中に部長職を中心とした策定委員会を組織しています。そこではこういう風に出す前の作業をしています。 ですから、ここに出てくるものは一度、策定委員会を通ってきたものです。 ただ、それも策定委員会で何も相談しないで作ったわけではなくて、昨年の市民の広場や団体別の会合を重ねてシンポジウム等も開催して広く市民の意見を聴いたものを、事務局がまとめて策定委員会で検討したものです。 しかし決定機関はこの審議会なので、策定委員会で決めるわけではありません。 これを一つの案として皆様から意見をいただき、総合調整部会や専門部会で議論を深めていきます。 そして審議会で2回、3回と議論を重ねて最終的に一つの案としてまとめます。 このような手順で行なっていることをご理解いただきたいと思います。
会長	その他、何かございますか。 なければ次にいってもよろしいでしょうか。 それでは議題3番目の「地方版総合戦略について」事務局より説明をお願いいたします。
	【議題3 地方版総合戦略について】
事務局	まず、A3判資料の1ページをご覧ください。 1月30日に開催しました第2回総合計画審議会におきましても資料配布いたしましたが、資料の内容を一部修正しております。 資料下段の重点とする取組の方向性、つまり恵庭版総合戦略の4本の部分ですが、基本構想(案)でも説明いたしましたが表現を「人がつながり人口減少を強みに変えるまちづくり」、「安全安心に住み続けたいまちづくり」、「希望を持って子育てしたいまちづくり」、「恵庭らしさを活かしたまちづくり」と修正し、図で表したときにわかりづらかったことから、総合戦略部分を点線で区分けし下段に表現し直しました。 また、点線の少し上に示している、「まちづくりの基本目標」ですが、左から示す順番を基本構想で示す順番にあわせて、「希望と活力に満ちたまち」と「人が育ち文化育むまち」を入れ替えております。
	次に資料の2ページをご覧ください。 こちらの資料は、2月17日から20日にかけて開催いたしました「地域資源」、「教育福祉」、「生活環境」の3つの専門部会より出された主な意見を、総合戦略の4つの柱を軸に分類したものとなっております。 これまでの恵庭市に関すること、これからの恵庭市に必要なことなど、これから総合戦略の事業を検討するにあたって、参考とすべき貴重なご意見をいただけたと考えております。
	次に資料の3ページをご覧ください。 3ページでは上段に総合計画と総合戦略の関係性を図示しています。 左側、総合計画では様々な市民意見より導き出した5つのまちづくりの視点を定め、それを実現するための5つの基本目標、現在24の目標に体系付けて個別の事務事業を行い、まちづくりを進めていきたいと考えております。 右側総合戦略では、総合計画の個別の事務事業と重複する事務事業もできますが、4本の重点的・横断的な取り組み方針に基づき行うこととなります。 国では総合戦略の策定には、「産官学金労言」産業、官公庁、学校、金融、労働者、報道機関を含めた中で行なうのが望ましいとされており、恵庭市では既に昨年度、分野別や地区別市民の方、一般公募市民によるワークショップ、本総合計画審議会など

議事録内容(12/17)

多くの方々により総合計画の策定に関わっていただいております。

本年度も総合計画・総合戦略の策定において意見をいただきたいと考えております。

下段ですが、2ページでお示した資料やこれまでの市民意見集約を参考とし、

現在、恵庭市内部でこれまでの縦割り行政にとらわれない自由な発想により、総合戦略に位置付け実施する事業を検討しております。

次に資料4ページには、参考資料として平成26年度の国の補正予算により新設された地方創生先行型交付金を活用し、

恵庭市において実施する事業を掲載しております。

資料の左側、「人がつながり人口減少を強みに変えるまちづくり」の中段、具体的事業の中に「転入者アンケート」とあります。

市ではこれまで、一般市民を対象とした市民意識調査(アンケート調査)を行ってきましたが、

本年5月には昨年3月から今年4月の間に恵庭市へ転入してきた世帯主の方を対象としたアンケートを行い、

転入理由や恵庭市に対する感想などの設問を今後の移住・定住施策の参考とするため、分析を行なうこととしています。

また、「安全安心に住み続けたいくなるまちづくり」では、これまで行なった市民意識調査などで満足度が低かった項目である。

エコバスに関する調査なども行なう予定としています。

事業選定までに期間が短かったため、なかなかつめ切れなかった部分もございますが、このような状況となっていることを報告いたします。

以上です。

会長	それでは質問等を承ることにしますが、いかがでしょうか。
----	-----------------------------

B委員	4ページにあります平成26年度補正予算事業で具体的事業がまだ全然決まっていないというのは
-----	--

今こういう案があるのではないかとかは提案した方がいいのでしょうか。まだ言わない方がいいのでしょうか。

色々考えてみたのですが、どんどん提案してもいいのですか。まだ決まっていないのですか。

例えば、希望を持って子育てしたくなるまちづくりで、ワークライフバランスというのが具体的に出てないですか。

実現できるかできないかは別として、提案した方がいいですか。

事務局	質問について確認させていただきたいのですが、平成26年度補正のところから質問が始まっていましたが
-----	--

この4ページの具体的事業欄に書かれているものは国に対して申込済のものであり、ここをどうこうということはできません。

ただ、上の段の恵庭版総合戦略基本目標案の具体的に考えられる例は、すでに3部会でも議論していただいておりますが

改めてということであれば、そこは修正することはできます。

ちなみにワークライフバランスですが、左から3個目の希望を持って子育てしたくなるまちづくりの中で

関連した事業を取り組んでいけたらと思っています。

以上です。

会長	その他、何かございますか。
----	---------------

C委員	色々なページに「人がつながり人口減少を強みに変えるまちづくり」という言葉があります。
-----	--

この言葉はあくまでも人口減少を鑑みておっしゃっているようですが、

今、恵み野里美ニュータウンも開発されまして、恐らく小さい子どもたちの減少ということもありえる話ですが

人口減少ばかりを考えないで、逆にもう少し増加を望めるような夢のある言葉を使ったらどうかという気がします。

それと「花・水・緑」という言葉で、場面によっては「花・水・緑」や「水・花・緑 人」とか順不同になっているので、

この順番を一本化した方が強調できると思います。

議事録内容(14/17)

G委員	今後の議論に対する要望になります。 基本構想も含めて一通り専門部会の方で議論したところが含まれていました。 取りまとめしていただいた事務局の皆様に変、感謝を申し上げます次第でございます。 実は地方版総合戦略も含めまして基本構想のところで、志の縁ということで話をさせていただきましたが、色々と今までの議論やアンケートを見ていく中で気になってこれを入れさせていただきました。 と言いますのも、市民の声を聴くといった時や、審議会でそれぞれ代表の方が入って議論した時に全体像として市民の声を捉えることが良い計画なんだ、良い議論なんだという風になりがちになってしまいます。 それが非常に気になっていることでありまして、先程A委員も触れていましたが地域を出たいと思ってしまう意見の中に具体的な問題があってそれを解決できないからだと私は思います。 この間の議論の中でも切実な問題が色々出てきていますが、その辺りが恵庭のまちの中で解決できているのかどうか、そういう視点がもう少し出てこない、この計画の中身がリアリティを持った議論にならないのではないかと考えています。 地方版総合戦略、地方創生も非常に大切だと思いますが、これが入ったおかげで、大上段のそういった文言も出てくる中でどうしても議論がしづらくなっているのかな、と議論などを聞いて思っています。 その辺については是非、私たち委嘱されている委員として、それぞれが持っている具体的な課題やそれぞれの舞台で活動されている中で認知症の話も出てきましたが、それが解決されているか、されていないか。なぜ解決されていないかということ、これからの計画というと、これは私たちとして考えなければならないのは課題が起こった時に、どうしてもこの計画は行政の計画という捉え方は間違っていないかもしれませんが、その問題に対して誰がやるかとなった時に市民の力がいわゆる民間の力というのもありますし、それがないと解決できないことの方が非常に多いのではないかと思います。 そうやってきた時に民間で解決できることや行政が解決すべきこともあれば、行政がマネジメントして民間の力を引き出したり、活用して解決するとか色々あると思います。 それを知っているのは現場ですので、私たちの方でしっかりチェックしていきながら細かくなりますが、私たちの部会でも私なりに分析すると細かいところを分析する中で、先程も議論になりましたが、まちづくりとして行政は何をすべきか住民は何をすべきか、民間は何をすべきか、地元の大学は何をすべきか、という議論が出てこないのかなと思います。 あるいは、そういうことをこの計画を通して私たちが学ばせていただく機会になるのかなと思いましたので是非、その辺りの意見や経験を聞かせていただけると私も大変、勉強になりますので今後そういった議論もしていただけたらと思います。
H委員	今の話を聞いていて私も色々発言しようと思っていましたが、審議なのか検討なのかわからなくなっていて審議委員会なので一つ一つの項目について検討すると言いたいことも小さいこともたくさんありますが、この場でそれを突いていいのかわからないところでした。計画の構想を見て思ったのが、たくさんのアンケートがありましてアンケートの中で障がい者の方に対する回答で負のネガティブなものがたくさん出ています。 障がい者の方に聞いたわけではないので先程、A委員も言ったように想像でしかないかもしれませんが問8の「障がいのある方が日常生活の困りごとを感じていると思いますか」の設問に対して88%が不便だと思うとか、問10の「障がい者にとって住みよいまちづくりができていると思いますか」の設問では60%が思わないとか問20の「障がいのある方や高齢者を含めて就労の場があるまちだと思いますか」の設問では、ないと思うが約70%とこのような意見も出ていますのでアンケートを踏まえると、総合計画の中でも障がい者に関することがあまり載っていないので是非そここのところも盛り込んでいただきたいと思います。 他も大事だと思いますが、この部門も入れていただきたいと思います。
会長	今の点で事務局、何かございますか。

議事録内容(15/17)

事務局	アンケートについて当初、指標を作るためにと説明をしましたが、少しわかりづらくて申し訳ございません。
	アンケートは総合計画に使いますから、市全体についての質問ですので、どうしても浅くなりがちです。
	指標ということは、H委員が言われました否定的なアンケート結果が多かったということですが、
	例えば8割の人が不満であると、そうすると指標として8割の不満を5割にするとかそういうことをするためのアンケートです。
	これから実施計画の中で80%の不満を50%にするための具体的な事業を考えます。
	具体的な事業は総合計画の実施計画にも総合戦略の方にも載せることになります。
	あくまでアンケートは今の現状の問題がどれほどあるか、それを解決するためのものと考えていただきたいと思います。
H委員	わかりました。
	ただ本当に福祉に関することがもう少し織り込まれてもいいのかなと、その一点でございます。
B委員	総合戦略基本目標の、希望を持って子育てしたくなるまちづくりの中で具体的な意見になります。
	子育て支援や教育環境というのをもう少し具体的に盛り込んでいただいてもいいのかなと思います。
	教育といってもどうしてもこここの審議会や市の職員の方々だけではわかりえない部分があると思います。
	そこで恵庭市立～小学校・～中学校と、恵庭市立といって恵庭市で作った学校ですので、そこにいる学校の先生方とも連携する
	というシステムをどこかで盛り込んでいただきたいと思っています。
	そうすることによって恵庭に暮らす子どもたちがより良い教育環境の中で成長していけると思います。
	子育て支援といっていますがもちろんお金の面、政策の面も一人ひとりの子どもに手をかけ愛情を持って育てることも大切ですが、
	戦略の中にどういう大人にしたいとか、もっと大人の視点を盛り込んでもいいのかなという気はしています。
	最終的には自営業であれ会社員であれ大人にして働く人間にしていかなければいけない。
	そういう時にどういう人と仕事がしたいか、どういう人から物を買いたいかという
	恵庭らしさを活かした魅力あるまちづくりにもつながると思いますが、学校や地域との連携や、大人の視点でどういう大人に育てたいか
	というのを盛り込んでいただけたら良いなと思いました。
	以上です。
会長	その他、何かございますか。
C委員	色々、行政で子育てや福祉を一生懸命に取り組んでいただいて非常に有難い事だと思います。
	今の子育てや学校との連携の話、障がい者の話等ありますが、
	あまり行政ががんばって行なっても、各家庭、各個人が奮起して学校のPTAに参加するとかそういう風にしていかなければ
	何もかも市で行政でまかなってくれはいけないと思います。
	家庭でも自分たちでももっとがんばれる、がんばってやっていく。
	そういう気持ちを強く持ってやっていただきたいと思います。
	行政も気張りすぎないで、あまりにも細やかに盛り込んでいくと、じゃあ何をしているんだということになりかねないので、
	ちょっとぼやかしていくというのも大切なのではないかと思います。
	子育ても、もっと皆さんが保育園や幼稚園、学校に行き、先生とコミュニケーションをとってやっていけば済むことはたくさんあります。
	それを先生が悪い、学校や行政が悪いとしては駄目だから。福祉でもそうです。
	私たちだって父や母の老後をしっかりと面倒を見ようと思って、家庭生活をしながら貯蓄をしてがんばっています。
	ですから、あまりにも行政におんぶに抱っこでない人づくりを考えていく。行政も少しだけやっていくスタイルで
	あまり細やかに盛り込みすぎるのもいかなものかなと思います。皆さんがんばっていきましょう。
	以上です。

議事録内容(16/17)

会長	貴重なご意見ありがとうございました。
	他はよろしいですね。
	それではここで皆様方も委員になった時にコメントを一言いただきましたので
	今回、審議会に初参加となります瀬戸口委員と高野委員の二方からコメントをいただきたいと思います。
	どうぞよろしくお願いいたします。
瀬戸口委員	今日は非常に活発な議論で感心しています。恵庭市だからこそのような積極的な意見が出てくるのだと思います。
	それで一つだけ気にしていただきたいのが、今日の議論で一番大切なところは基本構想案の32ページです。
	先程の将来都市像の案で1～4の案が出ていましたが、それはともかくこの32ページの表の右側に目標や施策があります。
	ここにどうことが書いてあるか、これから恵庭市がどういうことを具体的にやっていくかを決めていくための表です。
	市役所はこれに基づいて施策を進めます。ですのでどうことが大事かをこの中で積極的に議論していただきたいです。
	先程、H委員の意見で福祉が少し足りないのではないかという意見がありまして、
	私も確認したら確かに福祉が少し抜けているかもしれないと思います。
	この表一つで総合計画の中身が具体的に決まってくるので、これを基にもう一度きちんと議論していただければと思います。
	この表の欄の後ろに市役所のそれぞれの～課というのが付きます。どこの課の仕事が関係しています。
	それに関してこれからの行政や市の運営というのが、一つの課や行政の部署だけでは対応できないということがたくさんあります。
	そうした場合にこの中身の具体的なところをどうしていけば良いかをその内議論になっていくかと思えます。
	例えば目標の4番目に「災害に強い地域防災力」があって、防災といった時に、避難所の小学校は大丈夫ですか、
	その耐震改修はできていますかとなった時に、教育委員会やその他が協力して一緒に仕事をするようになります。
	具体的にどうことが大切なのかこの表に従って出てきますので是非、このようなことも含めて議論していただきたいです。
	もう一つ、22番の「住み続けたいくなるまちづくり・住まいづくり」で施策範囲に、住居表示・案内標識がありますがこれだけではないです。
	もっと色々なことを考えなければいけません。ですから、これらがどんどん詰まって総合計画になります。
	是非、この表を頭の中に常に入れておいてこれから議論していただけたらと思っています。
	よろしくお願いいたします。
	以上です。
高野委員	非常に恵庭らしく活発な議論で良かったと思います。
	先程の議論でもありましたが、市の内部でつくられた案を今日出してきたということですね。
	まず一点目、やはりPDCAが分かりにくかったりしましたが、私が1番分かりにくかったのは
	総合計画の6ページにある(1)まちづくりの視点の中にある①時代に沿った地域運営の・(黒ボツ)簡素で効率的な行政運営とか
	・(黒ボツ)柔軟な行政経営とか書いていますが、これは行政のプロの方はイメージが湧くと思いますが、
	市民にとってはこのような表現をされてもなかなか分かりにくいと思います。
	ですから、その辺、最初の段階で市の方で作られた資料を、
	市民向けに翻訳、分かりやすい言葉に直さなければ理解が進まないと思いました。
	二点目は今回タイミングよく市の総合計画と総合戦略の策定が同時期に重なったということで一緒に議論していますが、
	逆にその二つは性格が大分異なるわけで、総合計画は市としての総合計画ですし、
	総合戦略は変な言い方をすれば、国向けに交付金をたくさん獲得するような戦略という意味合いもあります。
	その時に先程も人口減少の話が出てきましたが、恵庭はそんなに人口減少しないでしょうか、
	統計の中で10年後でも数百人しか減らない予測になっています。他の都市と比べると人口減少が全然少ない見積もりになります。
	ところがやはり地方創生のシナリオ自体が人口減少が大前提であり、
	そう言っておかないと交付金の下りてこないような雰囲気があるので、先程も人口減少に負けないということが出ましたが、
	恵庭で水も花も人も溪谷も良いと、そういうことを進めていくのが総合計画である。それを前面に総合戦略で押し出してしまおうと
	そんなに幸せなら、他にもっと困っているところがあるから交付金はあげませんということにならないようにするために
	総合計画と総合戦略を二つに分けて考えなければいけません。
	総合戦略の方が少し交付金というのを念頭に置いたような雰囲気がでてきているので、分けて考えていった方がいいのかなと思いました。
	以上です。
	ありがとうございました。

議事録内容(17/17)

[illegible]